

ヤマユリ通信

2016 植栽号 Vol.8-2

麻生区地域課題対応事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 平成28年9月10日発行

♥ 目 次 ♥

- ◆鉢植え講習会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - ◆ヤマユリを種から育ててみませんか・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - ◆活動報告 ヤマユリ鑑賞会 ヤマユリ展示会 ボランティア活動のご紹介・・ 3
 - ◆ヤマユリ植栽普及会からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (ヤマユリ球根鉢植え講習会のご案内等)



▲平成27年度の講習会の様子です

ヤマユリの球根を使った
鉢植え講習会に
参加しませんか！

今年のヤマユリは例年よりも開花が遅かったようですが、7月中旬から下旬にかけて立派な花を見ることができました。堪能された方も多かったと思います。

花が終わると、例年の事ですが、球根の植栽と種の収穫の季節がやってきます。麻生ヤマユリ植栽普及会では、ヤマユリの球根を使った鉢植え講習会を11月に開催しています。今回で14回目を数えますが、多くの方が受講され、ご自宅でヤマユリの大輪を咲かせています。今年も企画進行中です。興味のある方は是非ご参加ください。(※詳細は4頁参照)

とても簡単な作業ですし、ベテランの会員が丁寧に指導いたします。この機会にヤマユリに挑戦してみたいと考えておられる方、また今まで育ててみたのにうまく育てられなかった方は受講されてはいかがでしょうか。初心者大歓迎です。

皆様と一緒に麻生区をヤマユリで一杯にしましょう。

ヤマユリを種から育ててみよう

球根に比べ、種からヤマユリを育てるのは、とても時間がかかります。しかし1年ごとに少しずつ成長し、5〜6年後に見事な花を咲かせる楽しみは、経験した者でなければ味わえない醍醐味です。種から育てる手法をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

種の用意

種は開花した後に出来る蒴(さく)から採取します。

●10月〜11月にかけて採取し、蒴の中から種を取り出す。中に種子がしっかりと入っているものだけを選び、ペトレート500倍液に30分ほど浸してから日陰乾燥させる。



▲蒴と種です

種の発根と植え付け

この種をそのままプランターに直播きしても良いのですが、発根させてから播種するほうが確実です。

●12月〜1月頃、密封式ビニール袋に、種1000粒程度とパーミキュライト300ccを入れて良く混ぜる。その後ペトレート500倍液を100cc、ビニール袋に注ぎ、袋をふつて攪拌し密封しておく。

●日陰の地中(5〜6cmの深さ)に、袋ごと埋めるか、袋を新聞紙にくるみ、暖房のない物置や納屋に保管しておく。

●9月下旬ごろにビニール

ル袋から取り出し、用土を入れたプランターに播種し、その上に球が隠れる程度に用土をかける。

※プランターの用土・・・底に軽石を置き、その上に、赤玉土(小粒) 2…腐葉土 1の割合で混ぜた用土を鉢の8分目まで入れる。

●プランター等に播種した時には、表面を乾かさないうよう、時々水遣りしてやること。翌年3〜4月には子葉(単葉)が発芽する。



▲翌年3月の発芽



▲2年目を迎えました



▲3年目です。茎立ちしました。

3年目の植替え作業

3年目を迎えたヤマユリを10月下旬〜11月下旬にかけて、植替えてやります。

●3年目の鉢から、小球根の根を痛めないように取り出し、絡まっている小球根の根を丁寧にほぐす。その小球根をペトレート500倍液に30分程度浸してから、日陰乾燥させる。

●深めの鉢を用意し、一番下に大きめの軽石、次に赤玉土(小粒) 3…軽石(中粒) 2の割合で混ぜた用土を鉢の7分目まで詰める。その上に小球根を置く。

小球根が隠れるくらいの赤玉土を被せたら、再び赤玉土 3…腐葉土 2の割合で混

ぜた用土を、球根の2倍程度の高さまで詰める。最後に乾燥防止用に腐葉土を薄くまき、たっぷりと水遣りをする。



▲4年目です。立派に成長。

5年を迎える前の植替え作業

●8号鉢を用意し、3年目の作業と同様の手順で作業を行う。一鉢に1〜2株。



▲5年目です。見事に咲きましたよ。



ヤマユリ植栽活動報告

ヤマユリ展示会 大好評!

恒例のヤマユリ展示会を6月27日～7月12日に行いました。

ヤマユリの特性や、区内で見られるヤマユリ自生地マップ。前年撮影したヤマユリの特大写真といった展示物。さらにヤマユリの成長過程が一目でわかる育成鉢5鉢、会員が育てたヤマユリの開花鉢17鉢を、麻生区役所2階ホール及び麻生市民館横に展示いたしました。



▲展示会の様子です

今年も参議院議員選挙の

期日前投票のお陰か、多くの方に見ていただき、また質問等も多く、例年以上に賑わった展示会となりました。来年も見応えのあるヤマユリを育てたいと、会員一同誓った次第です。

大勢の方が参加した ヤマユリ鑑賞会

7月4日(月)に、昨年に引き続きヤマユリ鑑賞会を実施いたしました。当日は晴天でかなり暑い日でしたが、一般参加は市外や区外から参加された方を含め63人で、会員等をあわせてなんと78人参加の大観賞会となりました。

観賞順路は、市民館裏、おやしる公園、さとやま公園で都合1時間半の行程。当日はそれぞれの観賞場所で、会員による説明を行いました。



▲多くの参加者です

ヤマユリの開花は我々の予想に反し、今年も例年よりも遅く市民館裏では開花率50%、おやしる公園では6輪程度、さとやま公園ではすべて蕾の状態、満開を期待して参加された方々には、多少の失望感も・・・。



▲市民館裏のヤマユリです

それでも、「こんなところにヤマユリが植えてあるなんて知らなかった」「散歩に丁度良い所ですね、時々来てみたい」「ヤマユリの満開

の時期に来てみます」といった声もあり、ヤマユリに対する関心を高めるきっかけになったのではと思います。ご参加の皆様お疲れ様でした。

感謝!感謝! ヤマユリ応援団

6月25日(土)、万福寺おやしる公園の定例作業に三井住友信託銀行新百合ヶ丘支店の勝田支店長以下10名の皆様に参加されました。当日は雨上がりの蒸し暑い日でしたが、皆さんには開花間近の遊歩道の整備と草刈り等に小一時間一緒に作業をしてもらいました。3年連続で参加した人や、初めて鎌を持つ人など様々。とても良い作業活動ができました。

参加された人たちの感想を聞いてみました。

新人の朝比奈さん、小倉さん、堀さんは「爽快であった。またやってみたいです」「鎌を使ったのは初めて

ですが、一所懸命やったお陰で少しの間に使い方が上達しました」「ボランティアは初めてだが機会があればまた参加したい」「CSR担当 松下さんは「良い汗をかきました。参加した皆も同じ思いでしょう。楽しい経験でしたし、やった結果が見えるのがとても良いですね」

勝田支店長は「麻生区の花を育てる機会に恵まれたのはとても幸せです。またこのような環境で汗を流して作業を行ったのも良い経験です」と総括されました。会員一同来年も大いに期待しております。



▲お疲れ様でした



麻生ヤマユリ植栽普及会からのお知らせ

鉢植え講習会のご案内

ヤマユリの球根を使った鉢植え栽培の講習会を受講してみませんか。昨年は10代の方も受講しました。初心者大歓迎です。翌年7月頃にはその優雅なたたずまいと濃厚な香りを楽しめますよ。

- ① **日時** 11月14日(月)午後1時30分～4時(雨天決行)
- ② **場所** 麻生区役所4階第1会議室 及び区役所前広場

- ③ **定員** 30名 定員を超えた場合は、抽選といたします。
- ④ **申込資格** 麻生区内在住者、在勤者、在学者とさせていただきます。
- ⑤ **受講料** 1,500円(但し球根、鉢、用土を含む)

- ⑥ **応募方法** 往復ハガキに、郵便番号、住所、氏名、電話番号(※連絡等する場合があります。必ずご記入ください)を明記のうえ、左記にお申し込みください。

なお、申し込みはお一人様

1通とさせていただきます。

T215-8570

麻生区役所地域振興課

「麻生ヤマユリ植栽普及会」

担当係

☎044-965-5370

- ⑦ **応募締切** 10月25日(火)

必着

- ⑧ **その他** 当日は駐車場の用意はございません。あらかじめご了承ください。またお持ち帰りの仕立て鉢は約5kgほどになります。

会員募集のご案内

麻生区の花・ヤマユリを公園や緑地でお好きな時に一緒に育ててみませんか。同好の士とおしゃべりを楽しみながらできる、軽作業のボランティア活動です。例会や作業現場を一度覗いてみてください。会員一同お待ちしております。

- **例会** 原則毎月第3木曜日

午後2時から交流館

ヤマユリにて開催

- **活動場所** ①市民館裏、②おやし

ろ公園、③さとやま公園、④

下麻生まつのき緑地、⑤王禪

寺すぎのき緑地、⑥王禪寺公

園、⑦岡上・梨子ノ木緑地な

ど。

植栽地・協力地募集のご案内

麻生区内の公園・緑地で、ヤマユリを植栽したい公園管理運営協議会・自治会がありましたら、下記当会事務局か麻生区地域振興課までご連絡ください。ご相談させていただきます。

今年の各種植栽の花だより



7月6日 王禪寺すぎのき緑地。見事な一輪です。



▲7月6日下麻生まつのき緑地での花比べ。



▶ 7月10日 梨子ノ木緑地にて

ヤマユリ植栽普及会への入会等のお問い合わせ、またヤマユリ通信の記事の内容についての照会等は左記までお願いいたします。

事務局 ☎(090)256

5-3390)

事務局長 山田 栄二

編集責任者 松田 肇